

全学共通科目（2019年度以降第1学年次入学者適用）

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
仏教	ブツダと法然	1	○	○	○	○		<p>本学の建学の理念である仏教精神において基礎となる仏教の祖ゴータマ・ブツダ（釈尊）と浄土宗の開祖である法然房源空の生涯と教えを学ぶ。</p> <p>はじめに宗教や仏教が人類に果たす役割について概説し、前半では多くの伝承に彩られたゴータマ・ブツダの歴史的な実像に迫るとともに、仏教の基本思想について、主に縁起や四諦を中心として解説する。</p> <p>後半では法然の生きた時代とその生涯、『選択集』や法語を中心とする思想的特色、法然滅後の浄土宗の展開を明らかにする。そして最後に、ブツダと法然の学修を通して建学の理念である仏教精神について確認するとともに、仏教の現代的意義や未来に果たすべき役割についても学修する。</p>
自校教育	佛敎大学の理念と歴史	1	○	○	○	○		<p>佛敎大学で学びながら、建学の精神や大学の歴史、校地周辺の地域環境・歴史的建造物など意外と知らないものである。佛敎大学の現在の学部・学科構成や教育理念なども、当然、建学の精神や大学の歴史と深く結びついており、また、大学が地域社会とつながりを持つべきことも近年課題として重視されつつある。</p> <p>このような中で学生自身の学ぶ大学やその周辺のことを知ることは、大学での学習やキャンパスライフをより充実したものとするほか、佛敎大学の学生としての自覚と向上心をより一層促すことを目的としている。</p>
英語	IntensiveReading1	1	○		○			<p>これまでに身につけた英語読解力の精度を高めるために、語句や文の構造からパラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。読解の方法としては英文和訳に加えて、英語によるパラフレイズを織り交ぜる。文法事項については、既習のものへの復習も含めて、必要に応じてテキスト以外の例文も用いて詳しく説明する。毎時間の小テストによって、ポキャブラリーの増強もあわせて行いたい。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。</p>
	IntensiveReading2	2	○		○			<p>Intensive Reading 1に引き続き、英語読解力の精度を高めるために、語句や文の構造からパラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。読解の方法としては英文和訳に加えて、英語によるパラフレイズを織り交ぜる。文法事項については、既習のものへの復習も含めて、必要に応じてテキスト以外の例文も用いて詳しく説明する。毎時間の小テストによって、ポキャブラリーの増強もあわせて行いたい。到達目標としては、1学年終了時に実施される英語基礎力調査でのリーディングスコアの上昇を目指す。</p>
	IntegratedCommunicationSkills1	1	○		○			<p>リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけインプット（速読型のリーディングとリスニング）に重点を置き、それを補完する形でアウトプット（スピーキングとライティング）の学習を行う。教室内では目標言語である英語を使用した授業を展開し、日本語を介さずに英語で相手の言いたいことを理解する訓練を行う。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。</p>
	IntegratedCommunicationSkills2	1	○		○			<p>リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけアウトプット（スピーキングとライティング）に重点を置き、それを補完する形でインプット（速読型のリーディングとリスニング）の学習を行う。教室内では目標言語である英語を使用した授業を展開し、日本語を介さずに英語で自分の考えを自在に発信する訓練を行う。クラス編成は、新入生オリエンテーションまでに受験した英語基礎力調査の結果に基づいた習熟度別となっている。</p>
	IntegratedCommunicationSkills3	2	○		○			<p>Integrated CommunicationSkills 1に引き続き、4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、インプット（速読型のリーディングとリスニング）に重点を置き、それを補完する形でアウトプット（スピーキングとライティング）の学習を行う。教室内では目標言語である英語を使用した授業を展開し、日本語を介さずに英語で相手の伝えたいことを理解する訓練を行う。到達目標としては、1学年終了時に実施される英語基礎力調査での総合的なスコアの上昇を目指す。</p>
	IntegratedCommunicationSkills4	2	○		○			<p>Integrated CommunicationSkills 2に引き続き、4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成するが、とりわけアウトプット（スピーキングとライティング）に重点を置き、それを補完する形でインプット（速読型のリーディングとリスニング）の学習を行う。教室内では目標言語である英語を使用した授業を展開し、日本語を介さずに英語で自分の考えを自在に発信する訓練を行う。到達目標としては、1学年終了時に実施される英語基礎力調査での総合的なスコアの上昇を目指す。</p>
	IntermediateReading1	3			○		○	<p>Intensive Reading1/2に引き続いて、英語読解力の精度を高めるためのクラスである。語句や文の構造からパラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。英文和訳や英語によるパラフレイズといった精読に加えて、速読や多読も織り交ぜる。毎時間の小テストによって、ポキャブラリーの増強もあわせて行いたい。</p>
IntermediateReading2	4			○		○	<p>Intermediate Reading 1に引き続いて、英語読解力の精度を高めるためのクラスである。語句や文の構造からパラグラフもしくは文章全体の内容を正確に理解するための読解訓練を行う。英文和訳や英語によるパラフレイズといった精読に加えて、速読や多読も織り交ぜる。毎時間の小テストによって、ポキャブラリーの増強もあわせて行いたい。</p>	
中国語	中国語1	1	○		○			<p>初修者が中国語の基礎を学ぶための授業である。具体的には、発音記号による発音の練習と初歩的な短文を理解するために必要な文法事項と基本文型の習得を目的とする。そのために、本授業は以下に重点を置いて行われる。</p> <p>①音節の発音と声調の習得。 まず発音記号である拼音字母の読み方を身につけ、4つの声調を正確に区別することをめざす。</p> <p>②初級文法の基礎となる事項と基本文型・基本単語の習得。</p>

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要	
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力を持っている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力を持っている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力		
外国語	中国語	中国語2	1	○		○		初修者が中国語の基礎を学ぶための授業である。具体的には、発音記号による発音の練習と初歩的な短文を理解するために必要な文法事項と基本文型の習得を目的とする。そのために、本授業は以下に重点を置いて行われる。 ①音節の発音と声調の習得。 まず発音記号である拼音字母の読み方を身につけ、4つの声調を正確に区別することをめざす。 ②初級文法の基礎となる事項と基本文型・基本単語の習得。	
		中国語3	1	○		○		初修者が中国語の基礎を学ぶための授業である。まず発音記号による発音の練習により正確な発音を身につける。次いで初歩的な会話体の短文を理解し、運用する能力を養成する。詳細な文法事項の習得ではなく、あくまで実生活における会話に慣れることを重点とする。 ①音節の発音と声調の習得。 まず発音記号である拼音字母の読み方を身につけ、4つの声調を正確に区別することをめざす。 ②実生活における幾つかの場面における会話表現を聞き取り、簡単な会話ができるようになることをめざす。	
		中国語4	2	○		○		中国語の発音の基本を身につけた初修者が、文法事項を中心に初級の中国語を習得するための授業である。基本文型を踏まえて、さらに多くの文法事項と単語の用法を身につけることを目的とする。本授業は以下に重点を置いて行われる。 ①初級段階で習得すべき基本的文法事項すべてを習得することをめざす。 ②1500語程度の語彙の習得をめざす。	
		中国語5	2	○		○		中国語の発音の基本を身につけた初修者が日常会話の基本的表現を習得するための授業である。日常生活のなかにおけるそれぞれの場面において使用頻度の高い、基本的な会話文を身につけることを目的とする。あわせて、各種視聴覚機器をも併用して、初歩的なヒヤリング能力の修得をめざす。実際の会話文を理解し、運用することを重視し、文法の詳細には立ち入らない。	
		中国語6	2	○		○		中国語の発音の基本を身につけた初修者が文法事項を中心に初級の中国語を習得するための授業である。基本文型を踏まえて、さらに進んだ文法事項と単語の用法を身につけることと平行して、初歩的な中国語作文の能力も養成する。本授業は以下に重点を置いて行われる。 ①初級段階で習得すべき基本的文法事項すべてを習得することをめざす。 ②1500語程度の語彙の習得をめざす。	
		中国語7	3			○	○		初級段階の中国語を修得したものを対象に、中級段階の文法事項の修得をめざす授業である。中国語は単語の用法が文法に直結する性格を有するので、新しい語彙を獲得することを主眼とする。また、やや長い文章を読むこと、あるいは中国語作文の練習を通して、文法を中核とした中国語の理解能力を高めてゆく。 なお、この段階においては、2500～3000語の語彙を習得することを目標とする。
	中国語8	4			○	○		初級段階の中国語を修得した者を対象に、とくに会話能力の進歩をめざすための授業である。受講者の多くは外国語を「聞く」訓練が十分ではないと思われるので、テキストと各種視聴覚機器を併用して、ヒヤリング・スピーキング両方の能力をバランスよく強化することを目標とする。また、語彙数の増加も重要であるので、日常生活や旅行などの場面を設定したややまとまった長さの会話文を題材にして、実際に即した中国語の習得をめざすこととする。	
	朝鮮語	朝鮮語1	1	○		○			朝鮮語の初修者を対象にする。まず、ハングルを学習する。朝鮮語と日本語の発音の違いを理解し、発音しづらい子音、母音にも慣れる。文として朝鮮語を読むときの発音法則（連音化、有声音化など）、および文法は簡単な基本文型「～は～です」「～は～ですか」「～は～ではありません」「～があります」「～がありません」を中心に学習する。助詞の使い方、語順など日本語との類似点を意識することにより理解を深めていく。日常生活、旅行で多く使われる数詞（漢数詞、固有数詞）も学習する。説明中心の講義と基本文型を練習する学生参加の両方で授業を進めていく。
		朝鮮語2	1	○		○			文字と発音からはじめ、「～です、ます」など、文法事項の最も基礎的なところを学ぶ。朝鮮語を理解するために必要な基礎的な文法事項を学びつつ、やさしい会話を中心とした学生参加型の授業を行なう。自己紹介の文、疑問詞を入れて作る質問文、数字の使い方による表現文など、習った文法を用いて作文することで、自分で応用する力を育てる。さらに作った文を使って、ペアおよびグループで会話の練習をすることで、自然な流れをつかむ。また、話題のドラマ、映画や歌などを取り入れ、生きた表現力の向上をはかる。
		朝鮮語3	1	○		○			初級朝鮮語会話を中心に、学生参加型の授業を行なう。ハングルの発音、初級レベルの日常会話を学習することをめざす。基本的に、朝鮮語1、朝鮮語2の授業で学習した文法を使って会話の練習をすることとし、主に、あいさつ、教室用語、簡単な自己紹介、疑問と否定の会話、時の表現、買い物仕方、「私の一日」などのテーマを設定して、会話の学習を進めていく。同時に、それらのテーマで使われる文法を習得し、簡単な読解、作文の練習も行なう。
		朝鮮語4	2	○		○			朝鮮語1に引き続き、基本文型を習得していく。朝鮮語の文体「ハムニダ体」「ヘヨ体」を学習し、使い方、ニュアンスの違いなどを理解する。会話の幅を広げていくため、過去形、連体形、敬語を学習する。とりわけ、日本語のネイティブが習熟しにくい母音の縮約について学習し、慣れるまで練習を繰り返す。また「誘い」や「提案」の文型、依頼の文型も学習する。朝鮮語1と同様、説明中心の講義と基本文型を練習する学生参加、両方で授業を進めていく。
		朝鮮語5	2	○		○			朝鮮語2に続き、最も基礎的な文法事項、つまり、助詞、否定文、敬語、過去形などを学び、易しい日常会話を学習していく学生参加型の授業を行なう。打ち解けた言い方のヘヨ体なども学び、より自然な会話を楽しむ。アドバイス、提案、頼み、願望などの表現を用いて会話文を作り、実際の会話ができるように、対話の練習や聞き取りの練習を行う。朝鮮語で書かれた短い文章が読める、簡単な日記が書けるようになることをめざす。さらに言葉を通して、韓国の文化にも触れる。
朝鮮語6		2	○		○			朝鮮語3に引き続き、初級朝鮮語会話を中心に、学生参加型の授業を行なう。初級レベルの日常会話を学習することをめざす。基本的に、朝鮮語1、朝鮮語2の授業で学習した文法を使って会話の練習をすることとし、主に、やや複雑なあいさつや自己紹介、敬語、非公式な場で使う「ヘヨ体」、夏休みにしたこと（過去形）、指示・アドバイスの表現、冬休みの予定（意志・未来表現）、勧誘・依頼の表現などのテーマを設定して、会話の学習を進めていく。同時に、それらのテーマで使われる文法を習得し、簡単な読解、作文の練習も行なう。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
必修外国語	朝鮮語7	3			○	○		基礎朝鮮語で培った文法知識を土台にコミュニケーションのための更なる基礎を作る。「聞く・話す・読む・書く」のすべての面において基本的な能力を養う。「話す、聞く」…簡単な自己紹介や挨拶、物の好き嫌い、物のある・なしについて会話する。「読む」…簡単な記述文や掲示文を読む。「書く」…簡単な日常生活について書く(発表形式)。毎回の授業で学んだ学習ポイントを積極的に会話に取り入れ、表現を試みる学生参加型の授業を目指す。
	朝鮮語8	4			○	○		朝鮮語7に引き続き、コミュニケーション能力のレベルアップを目指す。「話す、聞く」…日常生活を話す・聞き取る、人や物の特徴を言う、経験したことを話す・聞き取る(会話形式)。「読む」…簡単な記述文や手紙などを読む(辞書があれば簡単な文の読解が出来る)。「書く」…日記を書く、自分の考えや感じたことを書く(発表形式)。毎回の授業で学んだ学習ポイントを積極的に会話に取り入れ、表現を試みる学生参加型の授業を目指す。
	日本語1	1	○		○			日本語能力試験2級レベルを前提として、大学や大学院で行なわれる授業に積極的に参加していくために必要な聴解力と口頭表現力を高め、正確に「話す」能力を身につけることを目的とする。そのために、まず日本語の文法と発音の基礎を習得させるとともに、少しでも語彙を増やし、より高度な日本語能力の習得への橋渡しとする。同時に、正確な尊敬語・謙譲語を理解するための丁寧表現の基礎も習得させる。
	日本語2	1	○		○			日本語1に引き続いて、日本語の聴解力と会話の表現力を高め、より正確なコミュニケーション能力を習得させることを目的とする。日本語の長文を読みながら内容を把握し、その内容についての質問に答える訓練を繰り返しながら、読解力と会話能力の向上をめざす。また同時に、日本の社会事情や文化に関する種々の文献を読みながら、これらを参考に自分自身の考えや感想などをレポートにまとめることで、日本文化・日本歴史・日本事情の基礎についても理解できるように指導する。
	日本語3	1	○		○			日本語2に引き続いて、日本語のコミュニケーション能力のさらなる向上と談話構成における正確な文法を習得させることを目的とする。日本語の語彙力、構文把握、表現力など総合的な力が身につくように反復練習しながら、会話とともに、日本語の作文力・表現力の向上をめざす。また長文を正確に朗読したり、演劇の脚本などを用いて寸劇に挑戦させるなど、さまざまな方法を用いて日本語の総合的な能力を鍛えてゆく。
	日本語4	2	○		○			日本語3に引き続いて、日本語コミュニケーション能力のさらなる向上と、より高度な日本語表現を習得させることを目的とする。会話表現では尊敬語と謙譲語の正確な使い分けができること。さらに難易度の高い日本語の聴解力を養いながら、より自然な日本語を用いての会話が可能になるように導いてゆく。また日本文化・日本史・日本事情に関する文章を読みながら、それらの読解と特に日本歴史の正確な理解を促す。
	日本語5	2	○		○			日本語1から日本語4を土台として、より上級の日本語運用能力を身につけることをめざす。特に「日本語5」では、総合的な会話能力が習得できるように指導する。難易度の高い語彙を含んだ専門的な表現力と聴解力を身につけ、授業における発表や受け答えができるように導いてゆく。文法的に正しい日本語会話能力から一歩進めて、正確かつ適切で美しい日本語表現が可能となることをめざす。
	日本語6	2	○		○			日本語5に引き続いて、上級から超上級の日本語運用能力を習得させることを目的とする。大学における授業での専門的な表現力と聴解力からさらに進めて、専門の学会等での発表や質疑応答、およびシンポジウムにおけるパネリストが可能な程度の専門的な日本語能力をめざす。そのためには日本人による専門的な学会発表を聞く機会を与え、発表に基づいた質疑応答に実際に参加させ、実践による超高度な日本語能力開発につなげてゆく。
	日本語7	3			○	○		日本語1から日本語4を土台として、上級の日本語運用能力を身につけることをめざす。特に「日本語7」では、日本語の高度な作文能力の習得をめざす。大学におけるレポートの作成にとどまらず、より専門性の高い論文執筆を目標として、正確で質の高い日本語表現ができるように指導してゆく。そのためには、日本語能力のみならず、日本文化・日本史・日本事情に関する専門的な文章を読み込むことが必要とされる。さらに日本の古語と文語文法の基礎を学ぶことも必要とされる。
	日本語8	4			○	○		これまでの日本語学習の集大成として、「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」すべてにおける超高度な日本語能力の習得が最終目標である。日本人とまったく同等に日本語が聞け、話し、読め、書けることを前提として、日常生活はもちろん、授業や専門の学会においても、何ん自由なく日本語を使いこなす、また「日本語で物事を考える」ことができるような高度な語学能力を養うことをめざす。
選択外国語	英語							
	General English1	1	○		○			リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。 授業展開としてはリーディングを中心にしたものとなり、速読だけでなく、語句や文構造の正確な理解、文法事項についての詳しい解説、ポキャブラリーの増強もあわせて行う。これまでに習得した英語力を維持するとともに、さらなる飛躍を目指す。
	General English2	1	○		○			General English 1に引き続き、リーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの4領域にわたる総合的な英語コミュニケーション力の基礎を養成する。 授業展開としてはリーディングを中心にしたものとなり、速読だけでなく、語句や文構造の正確な理解、文法事項についての詳しい解説、ポキャブラリーの増強もあわせて行う。これまでに習得した英語力を維持するとともに、さらなる飛躍を目指す。
	Communication Seminar1	1	○		○			英語の上級クラスである。文学作品と作家の生涯を題材にして、英語によるディスカッション能力を養成する。クラスごとに映画等を取り上げ、原文・リトルド版・DVDを使用する。担当講師はネイティブ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる。受講生は積極的に英語でディスカッションに参加しなければならない(日本語厳禁)。受講にあたっては、TOEIC 500点以上/英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。
Communication Seminar2	1	○		○			英語の上級クラスである。文学作品と作家の生涯を題材にして、英語によるディスカッション能力を養成する。クラスごとに映画等を取り上げ、原文・リトルド版・DVDを使用する。担当講師はネイティブ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる。受講生は積極的に英語でディスカッションに参加しなければならない(日本語厳禁)。受講にあたっては、TOEIC 500点以上/英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していること、Communication Seminar1を履修済であることが望ましく、毎回の授業への出席と積極的な受講態度が求められる。	

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
英語	English Lecture1	1	○		○			英語の上級クラスである。英語で何かを学ぶことに重点をおいたcontent-basedのクラスである。音楽／歌と社会の関係について講義する。受講生には、資料を事前に読むこと、授業中のノートテイクの技術、独自のリサーチとプレゼンテーションが要求される。担当講師はネイティブ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語厳禁）。受講にあたっては、TOEIC 500点以上／英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることが条件となる。
	English Lecture2	1	○		○			英語の上級クラスである。英語で何かを学ぶことに重点をおいたcontent-basedのクラスである。音楽／歌と社会の関係について講義する。受講生には、資料を事前に読むこと、授業中のノートテイクの技術、独自のリサーチとプレゼンテーションが要求される。担当講師はネイティブ・スピーカーで、授業はすべて英語によって行われる（日本語厳禁）。受講にあたっては、TOEIC 500点以上／英検2級を取得しているか、もしくはそれと同等以上と認められる英語力を所持していることと、English Lecture1を履修済であることが望ましく、毎回の授業への出席と積極的な受講態度が求められる。
	初級英語会話1	1	○		○			英会話の基礎力を養成するクラスである。テキストで扱われているトピックや表現パターンを利用して、個別・ペア・グループでスピーキングの練習をする。担当講師はネイティブ・スピーカーで、基本的に授業はすべて英語で行われるが、必要に応じて日本語での補足説明をする。到達目標としては、簡単な英語の文を使って自分の考えを口頭で表現できることである。受講条件として英語力によるレベル制限を設けないが、毎回の授業に出席し、授業内での活動に積極的に参加することが求められる。
	初級英語会話2	1	○		○			英会話の基礎力を養成するクラスである。テキストで扱われているトピックや表現パターンを利用して、個別・ペア・グループでスピーキングの練習をする。担当講師はネイティブ・スピーカーで、基本的に授業はすべて英語で行われるが、必要に応じて日本語での補足説明をする。到達目標としては、簡単な英語の文を使って自分の考えを口頭で表現できることである。受講条件としては、初級英語会話1を履修済であることが望ましく、毎回の授業への出席と積極的な受講態度が求められる。
	Skill-building (TOEIC500) 1	1	○		○			リスニングとリーディングの演習を通して、TOEICテストでのスコアアップを図り、最終的には500点以上のスコア取得を目指す。英語の構造、基本的な文法についての理解を深め、最重要目標として語彙力の増進を掲げる。質的な学習に加えて、量的にも多くの問題に取り組んでもらう。テキスト以外にも補助教材（プリント資料配布）を用いて、模擬テストを適宜実施する。英語力による履修制限を設けないが、教材のレベルはあくまでもTOEIC 500点レベルであることを十分承知した上で受講すること。
	Skill-building (TOEIC500) 2	1	○		○			リスニングとリーディングの演習を通して、TOEICテストでのスコアアップを図り、最終的には500点以上のスコア取得を目指す。英語の構造、基本的な文法についての理解を深め、最重要目標として語彙力の増進を掲げる。質的な学習に加えて、量的にも多くの問題に取り組んでもらう。テキスト以外にも補助教材（プリント資料配布）を用いて、模擬テストを適宜実施する。英語力による履修制限を設けないが、Skill-building (TOEIC 500) 1を履修済か、もしくはそれに相当する英語力を所持していることが望ましい。
	Skill-building (TOEIC600) 1	1	○		○			リスニングとリーディングの演習を通して、最終的には600点以上のスコア取得を目指す。英語の構造、基本的な文法についての理解を深め、最重要目標として語彙力の増進を掲げる。質的な学習に加えて、量的にも多くの問題に取り組んでもらう。テキスト以外にも補助教材（プリント資料配布）を用いて、模擬テストを適宜実施する。受講条件としては、TOEIC 500点以上のスコアを取得しているか、Skill-building (TOEIC 500) 1／2を履修済みであるか、もしくはそれに相当する英語力を所持していることが望ましい。
	Skill-building (TOEIC600) 2	1	○		○			リスニングとリーディングの演習を通して、最終的には600点以上のスコア取得を目指す。英語の構造、基本的な文法についての理解を深め、最重要目標として語彙力の増進を掲げる。質的な学習に加えて、量的にも多くの問題に取り組んでもらう。テキスト以外にも補助教材（プリント資料配布）を用いて、模擬テストを適宜実施する。受講条件としては、TOEIC 500点以上のスコアを取得しているか、Skill-building (TOEIC 600) 1を履修済みであるか、もしくはそれに相当する英語力を所持していることが望ましい。
	Intensive Overseas Program（短期海外語学研修認定用）	1	○		○	○		夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外英語研修プログラム。現地での英語研修に参加するだけでなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。
中国語	初級中国語1	1	○		○			選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初修者が初歩段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では、まず発音記号である拼音字母によって発音の基礎を習得する。また中国語は声調を持つ言語なので、声調の習得にはとくに留意させる。その後、基礎となる語彙と文法事項を中心に学習する。この授業では1000語の単語を習得することを目標とする。
	初級中国語2	1	○		○			選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初級中国語1に引き続き、初修者が初歩段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では、まず発音記号である拼音字母によって発音の基礎を習得する。また中国語は声調を持つ言語なので、声調の習得にはとくに留意させる。その後、日常生活の各場面において頻用される会話文を素材に基礎的会話能力の獲得を目指し、とくに「聞く」と「話す」能力の養成に力点を置く。
	中級中国語1	1	○		○			選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。初級中国語1、2に引き続き、初級段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では発音を基本的に習得していることを前提として、とくに文法事項の習得に重点を置き、初級段階の文法事項について十全に理解することをめざす。また語彙数の増加も重要であるので、この授業では1500語～2000語程度の語彙を獲得することを目標とする。
	中級中国語2	1	○		○			選択外国語として中国語を学ぶ学生のための授業である。中級中国語1に引き続き、初級段階の中国語能力を獲得することを目標とする。 この授業では発音を基本的に習得していることを前提として、文法事項よりも会話体に慣れさせ、日常生活でのさまざまな場面での会話文を基本的に習得することをめざす。授業中は視聴覚機器を積極的に活用して、リスニング能力の強化にもつとめる。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要	
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力		
選 択 外 国 語	中国語	中国語表現法（短期海外語学研修認定用）	1	○	○	○	○	夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外中国語研修プログラム。現地での中国語研修に参加するだけでなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。	
	朝 鮮 語	初級朝鮮語1	初級朝鮮語1	1	○	○	○	○	朝鮮語の基礎を学ぶことを目的とする。前半は、朝鮮語の文字と発音、発音の変化などを中心に、繰り返し書く練習・発音練習を行う。授業中、一人一人が何度も口を動かして、文字と発音に慣れるよう指導を行う。後半は、「～は～です（ではありません）」、「～に、います（あります）／いません（ありません）」など基礎的な助詞や文型の練習と、自己紹介やあいさつなど簡単な会話を習得する。
		初級朝鮮語2	初級朝鮮語2	1	○	○	○	○	初級朝鮮語1に引き続き、朝鮮語の基礎を学ぶ。文字や発音を繰り返し確認しながら、助詞の使い方、動詞・形容詞の丁寧体、へヨ体、変則用言、過去形など用言の活用を中心に、文法の練習を繰り返し行う。また、漢数字を使った表現・固有数字を使った表現や、否定・不可能、好み・願望など、表現の幅を広げる文型を習得する。習った文型や表現を使って、自分自身のことを表現できるよう、簡単な作文や会話練習を行う。
		中級朝鮮語1	中級朝鮮語1	1	○	○	○	○	初級朝鮮語2に引き続き、朝鮮語で自己表現する力を育てていく。授業では、状況や場面に適切に対応し、正しい文型と語彙を使って自分の意見や気持ちを述べられるようになることを目標とする。具体的には、状況を説明する、様子から推測・判断する、注意・指示を与える、他人の話を伝える、許可と禁止などの学習事項を中心に、自分の意見・考え・気持ちを文にまとめる他に、実践的な会話の練習をするなどして、主に、学生参加型の授業を行う。
		中級朝鮮語2	中級朝鮮語2	1	○	○	○	○	中級朝鮮語1に引き続き、朝鮮語の基本的会話能力の育成を目指して、学生参加型の授業を行なう。主に、自己紹介、目上の人への話し方、「へヨ体」、過去形、願望・意志・予定の表現、勧誘・依頼・禁止の表現、ぞんざいな言い方などの文法および会話における慣用表現を学習する。授業では、作文と会話練習を並行して行い、適切な表現を用いて自分の意見・考えを表現し、相手の意見や考えが理解できることを目標とする。
		朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	朝鮮語表現法（短期海外語学研修認定用）	1	○	○	○	○	夏期休暇もしくは春期休暇期間中に実施される全学対象の短期海外朝鮮語研修プログラム。現地での朝鮮語研修に参加するだけでなく、日本での事前研修および事後研修にもすべて参加しなければならない。履修条件は特に設けていないが、海外での数週間にわたるプログラムであるので、申し込み時に面談を行い、その結果によって参加が認められる。また参加定員と最小実施人数も定められている。プログラムの開催場所・日程・内容・費用等の詳細についてはそれぞれのプログラムが実施される前の説明会にて発表する。
	ド イ ツ 語	初級ドイツ語1	初級ドイツ語1	1	○	○	○	○	はじめてドイツ語を学ぶのに適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。発音、綴りの読みを特に念入りに練習し、ドイツ語の基本文法を学習する。目標としては、発音と基本文法を理解し、短文の読解力をつけることと簡単な日本語をドイツ語で表現できることを目指す。文法事項としては、発音、綴り、基本動詞の活用、名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、命令法、前置詞、分離動詞、助動詞、等を扱う。
		初級ドイツ語2	初級ドイツ語2	1	○	○	○	○	ドイツ語を少し学習したことのある人に適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。「基礎ドイツ語1」を履修していることが望ましいが、反復・復習重視の授業であるので、若干のドイツ語の知識があれば履修できる。目標としては、発音と基本文法を習得し、長い文章の読解力をつけることとドイツ語表現の理解力をつけることを目指す。文法事項としては、動詞の三基本形、完了形、関係代名詞、受動態、不定詞、再帰代名詞、再帰動詞、比較表現、代名詞、接続法、等を扱う。
		中級ドイツ語1	中級ドイツ語1	1	○	○	○	○	ドイツ語の発音と基本文法を一通り学習した人を対象に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、文法事項を確認するだけでなく、その内容を把握することにも重点を置く。文法に関しては、基本事項の復習とともに、それに基づく応用表現を学習する。取り扱う文法項目としては、過去形、現在完了形、不定詞、受動態、接続詞、関係代名詞、接続法、等の復習および応用表現となる。「初級ドイツ語1/2」を履修済みであるか、もしくはそれに相当するドイツ語力を所持していることが履修条件となる。
		中級ドイツ語2	中級ドイツ語2	1	○	○	○	○	ドイツ語の発音と基本文法を一通り学習した人を対象に、ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、文法事項を確認するだけでなく、その内容を把握することにも重点を置く。文法に関しては、基本事項の復習とともに、それに基づく応用表現を学習する。取り扱う文法項目としては、名詞、冠詞、形容詞、動詞の変化、分離動詞、再帰動詞、助動詞、等の復習および応用表現となる。「中級ドイツ語1」を履修済みであることが望ましく、もしくはそれに相当するドイツ語力を所持していることが履修条件となる。
		初級フランス語1	初級フランス語1	1	○	○	○	○	はじめてフランス語を学ぶのに適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。何よりもフランス語らしく発音できると平易な会話表現の聞き取りに重点を置きつつ、フランス語の基礎的なしくみを学ぶ。フランス語らしい発音で挨拶などができると、聴解と読解に不可欠な基礎的文法事項の習得が目標となる。文法事項としては、アルファベ、発音、名詞の性と数、数字、冠詞、基本動詞の活用、否定・疑問の表現、形容詞、人称代名詞、等を扱う。
	フ ラ ン ス 語	初級フランス語2	初級フランス語2	1	○	○	○	○	フランス語を少し学習したことのある人に適したクラスで、「聞く」「話す」「読む」「書く」をバランスよく取り入れた総合学習を行う。受講条件としては「初級フランス語1」を履修していることが望ましいが、反復・復習重視の授業であるので、若干のフランス語の知識があれば履修できる。フランス語らしく発音できると平易な会話表現の聞き取りに重点を置きつつ、さらに一歩進んだフランス語の基礎を学ぶ。文法事項としては、代名動詞、命令法、複合過去形、半過去形、未来形、比較表現、接続法、等を扱う。
		中級フランス語1	中級フランス語1	1	○	○	○	○	フランス語の発音と基本文法を一通り学習した人を対象に、ある程度の分量の仏文を読みながら、文法事項を確認するだけでなく、その内容を把握することにも重点を置く。文法に関しては、基本事項の復習とともに、それに基づく応用表現を学習する。取り扱う文法項目としては、動詞の用法、疑問表現、人称代名詞、比較表現、等の復習および応用表現となる。「初級フランス語1/2」を履修済みであるか、もしくはそれに相当するフランス語力を所持していることが履修条件となる。
		中級フランス語2	中級フランス語2	1	○	○	○	○	フランス語の発音と基本文法を一通り学習した人を対象に、ある程度の分量の仏文を読みながら、文法事項を確認するだけでなく、その内容を把握することにも重点を置く。文法に関しては、基本事項の復習とともに、それに基づく応用表現を学習する。取り扱う文法項目としては、複合過去形、半過去形、大過去形、代名動詞、未来形、条件法、接続法、等の復習および応用表現となる。「中級フランス語1」を履修済みであることが望ましく、もしくはそれに相当するフランス語力を所持していることが履修条件となる。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
外国語	ベトナム語	初級ベトナム語1	1	○	○			選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。したがって初歩段階の能力を獲得することを目標とする。ベトナム語は中国語と同じく声調をもつ言語であり、発音が難しいので、まず声調を含めた発音をしっかり身につけることをめざす。その際、ベトナム語はローマ字によって表記されるので、その表記の規則も理解させる。その後は、テキストに沿って学ぶことにより、基本語彙と基本文法の習得を目的とする。
		初級ベトナム語2	1	○	○			選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。初級ベトナム語1に引き続き、初歩段階の能力を獲得することを目標とする。ベトナム語は中国語と同じく声調をもつ言語であり、発音が難しいので、まず声調を含めた発音をしっかり身につけることをめざす。その際、ベトナム語はローマ字によって表記されるので、その表記の規則も理解させる。その後は、テキストに沿って学ぶことにより、基本語彙と基本文法の習得を目的とする。
		中級ベトナム語1	1	○	○			選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。初級ベトナム語1、2に引き続き、初級段階の能力を獲得することを目標とする。 この授業ではベトナム語の発音を一通りマスターしていることを前提とするが、授業の過程で発音を再確認して、発音を確実なものとする。そのうえで「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの面から初級ベトナム語の文法事項や基本語彙を習得することを目的とする。
		中級ベトナム語2	1	○	○			選択外国語としてベトナム語を学ぶ学生のための授業である。初級ベトナム語1・2、中級ベトナム語1に引き続き、初級段階の能力を獲得することを目標とする。 この授業ではベトナム語の発音を一通りマスターしていることを前提とするが、授業の過程で発音を再確認して、発音を確実なものとする。そのうえで「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの面から初級ベトナム語の文法事項や基本語彙を習得することを目的とする。
		ベトナム語表現法（短期海外語学研修認定用）	2	○	○	○		
日本語表現	専門学修のための日本語表現	1	○	○		○	大学での学びの基盤となるアカデミックな日本語表現能力を涵養する。 学科の教育内容を理解すると共に、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を修得する。	
情報処理	必修情報処理	コンピュータ・リテラシー	1	○	○			大学生として必要なコンピュータ・リテラシーの基本を修得する。日本語文書の入力と整形、表の作成と計算、情報発信とプレゼンテーションの基礎について演習し、ゼミなどのレポートにコンピュータとネットワークを適切に利用できることを目指す。 また、インターネットの仕組みとその安全な利用法（情報セキュリティ）、情報関連法制とネットワーク利用の倫理とについて講義・学修した上で、学内ネットワークの利用法（蔵書・論文検索含む）などについても学ぶ。
		表計算と統計	1	○	○			汎用オフィスソフトを利用したスプレッドシートの操作について修得し、基礎的な統計計算をこれらのソフトを利用して行い、結果を判りやすく提示することができるようにする。表の作成・整形、各種の数値計算、文字列などの操作や論理演算、関数と分析ツールを利用した統計計算（平均値、検定、相関係数など）の基本を学ぶ。また、分析結果の見やすい提示のためのグラフ処理、マクロプログラムの記録と実行についても学ぶ。
		インターネット・プログラミング	1	○	○			インターネットのブラウザ上で動作できるJAVAスクリプトは、現在、ほとんどといっていいほど多くのHPで利用されている。このスクリプトの基本を修得し、利用しやすく発信力あるHP作成に役立てることができるようにする。スクリプトの書き方、基本文法（オブジェクト・プロパティ・メソッド・変数）、構文（条件分岐・繰り返し・ラベル）、演算子、関数などについて講義し、JAVAスクリプトをHPで利用できるようにする。
キャリア	選択情報処理	マルチメディアプレゼンテーション	1	○	○			今日、多くの場で行われるプレゼンテーションにおいては、様々なコンテンツを組み合わせる行うことが通常のこととなっている。目的に合わせて、多様なコンテンツを適切に組み合わせたプレゼンテーションができることを目指す。各種メディアコンテンツの形式と特徴について講義・理解した上で、文書・音声・静止画・動画コンテンツの作成と編集を行い、それらを組み合わせたマルチメディア・プレゼンテーションが実現できるようにする。
		キャリア形成	1	○	○	○		仕事は実際におこなって本当の興味や関心が芽生える。“キャリアをデザインする”ということは、このような基礎の上に自己の能力・やる気・仕事環境の関数で積み上げるものである。 この授業では確実に職業的キャリアの一步を踏み出す為の準備として必要な知識と態度を養う。また、大学教育を受けることは貴重な時間とコストを自己に投資することである。最大効用価値を獲るためにはどのようにすべきか、そして迷わずその成果を将来に活かすために必要な知識とスキルは何かを考える。
		組織マネジメント論	1	○	○	○		NPO法人論の基礎とマネジメント論の基礎を提供する。具体的には、PFドラッカーの『マネジメント―基本と原則―』に基づいて、NPO法人の特質、マネジメントが必要とされる理由、マネジメントの体系と機能について包括的に学習する。
キャリア	必修情報処理	表現技法とプレゼンテーション	3		○	○		「コミュニケーション能力」を高めることを目的に、「話し方」、「話の構成」、「聴き方」、「言葉づかい」など様々なテーマで取り組む。授業は講義中心ではなく、グループワークを通して自分の持ち味（強み、知識・情報）に気づき、発揮し、伸ばしていくことを目的とする。
		リーダーシップ論	3		○	○		社会では、個々の能力はもとよりチームの力が試されることが多くある。しかし、「チーム」と一言でいってもそれを創りだし機能させるには、メンバーそれぞれのコミュニケーション能力や、メンバーの意見をまとめ、進むべき方向を示すリーダーシップが必要となる。 本講義では、受講生が円滑なコミュニケーションが取れる能力を有していることを前提に、より良い結果が出せるチームデザインに必要な要素を理解し、リーダーシップに必要な技法を学ぶ。
		情報収集と問題解決	2	○	○	○	○	マスコミ・自治体広報・文化産業におけるキャリア形成支援、即戦的人材育成の場としたい。 「創造は力なり」情報技術がもたらすコミュニケーションの広がりや迅速化により、何を、どのように、誰に伝えたいのか、問われる時代となっている。企業価値創造における広告とブランドの展開など実社会との関わりを考える実践的な場とする。またIT社会での地方自治体の新広報戦略・地域コンテンツ資源を活用した地域政策における「観光」「文化政策」等戦略的展開に関しても論ずる。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
キャリア	インターンシップ	3		○	○	○		実際の企業で実務研修をおこなうにあたって、事前研修では佛教大学学生として相応しい人間力や社会的マナーの醸成を図るために次のような研修（自校教育、業界研究、ビジネス実務、マナー研修、コミュニケーション研修など）をおこなう。また研修成果を効果的にするために自主学習を基本とし研修プログラムの策定や研修内容について企業との打ち合わせも学生自身がおこなう。実務を通して自己の理解と転機・経験の獲得および主体的なキャリア形成能力の向上を目指す。
	地域活動1	3	○	○	○	○		講義によって基礎知識を身につけるとともに実際に地域に入ることにより、働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、人との交流・協働の大切さを学びながら、社会的・職業的自立に向け、自他との理解能力・コミュニケーション能力、職業的理解力、役割把握・認識能力、計画的実行能力、自ら課題を発見し解決する能力(課題解決能力)を身につけることを目的とする。 本講義では、「祇園祭」等の伝統行事に関わるることによって、所期の目的を達成する。
	地域活動2	3	○	○	○	○		講義によって基礎知識を身につけるとともに実際に地域に入ることにより、働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、人との交流・協働の大切さを学びながら、社会的・職業的自立に向け、自他との理解能力・コミュニケーション能力、職業的理解力、役割把握・認識能力、計画的実行能力、自ら課題を発見し解決する能力(課題解決能力)を身につけることを目的とする。 本講義では、農山村などに実際に入り実践することによって、所期の目的を達成する。
スポーツ	スポーツ理論	1	○		○	○		人体の構造、その生理的な機能を把握し、さらに運動時における各器官の生理的な反応を説明する。自らの健康を考え、又、子どもから大人の人々の指導を行う時の基本的な考え方を講義する。
	スポーツ実技	1	○		○	○		各種のスポーツの実践を通して、各個人のそれなりの体力維持・増進、そのスポーツ技術の習得、心身に対する管理能力の向上、そして、より多くの人たちとの関わりを通して自己研鑽。これらの事柄を少しでも各自が獲得することを目的とする。
日本事情	日本事情	1	○		○	○		日本の文化・歴史・社会・経済等について理解を促すために行う科目である。日本を正確に理解し、日本語を学びながら専門領域における研究を進めてゆくために、まず必要な知識として日本史と日本文化の基礎を習得することをめざす。さらにその中で、日本社会と経済の特質とそれらの近年の動向についても学びながら、自国との比較を行いつつ、正確な日本の姿が理解できるように導いてゆく。
海外研修	短期海外語学研修（英語）1	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、英語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（英語）1として認定する。
	短期海外語学研修（英語）2	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、英語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（英語）2として認定する。
	短期海外語学研修（英語）3	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、英語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（英語）3として認定する。
	短期海外語学研修（英語）4	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、英語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（英語）4として認定する。
	短期海外語学研修（中国語）1	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、中国語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（中国語）1として認定する。
	短期海外語学研修（中国語）2	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、中国語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（中国語）2として認定する。

区分	科目名	履修開始semester	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
海外研修	短期海外語学研修（中国語） 3	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、中国語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（中国語）3として認定する。
	短期海外語学研修（中国語） 4	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、中国語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（中国語）4として認定する。
	短期海外語学研修（韓国語） 1	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、朝鮮語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（韓国語）1として認定する。
	短期海外語学研修（韓国語） 2	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、朝鮮語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（韓国語）2として認定する。
	短期海外語学研修（韓国語） 3	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、朝鮮語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（韓国語）3として認定する。
	短期海外語学研修（韓国語） 4	1	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、朝鮮語圏で実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（韓国語）4として認定する。
	短期海外語学研修（ベトナム語） 1	2	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、ベトナムで実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（ベトナム語）1として認定する。
	短期海外語学研修（ベトナム語） 2	2	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、ベトナムで実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（ベトナム語）2として認定する。
短期海外語学研修（ベトナム語） 3	2	○		○	○		国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。 語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。 なお、本科目は、ベトナムで実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（ベトナム語）3として認定する。	

区分	科目名	履修開始メスタ	1	2	3	4	5	科目概要
			仏教精神に基づいて、豊かな人間性、確固たる倫理観、智慧と慈悲を身につけている	仏教精神に基づき、人生における諸問題に対応する力をもっている	社会人として必要な教養や知識・技能を身につけている	自己をみつめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力を身につけ広い視野で思考できる力をもっている	専門領域に関する知識や技能を修得し、問題把握力と問題解決力	
海外研修	短期海外語学研修（ベトナム語）4	2	○		○	○		<p>国際化する現代社会では、国際感覚を身につけることはもはや特別なことではない。諸外国の文化・歴史・社会情勢・価値観等を理解することにより、日本との相違を認識しつつ、その国の人々と積極的に交流できることが、身につけておくべき重要な要素である。</p> <p>語学研修はもとより、「国際人の育成」を目的として独自に作成されたもので、その中で現地講師の授業のみならず、種々のフィールドワークが設定されており、これらを通して貴重な体験が得られるものと確信している。</p> <p>なお、本科目は、ベトナムで実施されており、派遣先に合わせて短期海外語学研修（ベトナム語）4として認定する。</p>
大学コンソーシアム	大学コンソーシアム	1			○	○		<p>京都地域を中心に50の大学・短期大学が大学コンソーシアム京都という組織に加盟し、単位互換制度を締結している。この単位互換制度で提供される科目は、学生の幅広い関心と興味に応じて、文化、芸術、政治、経済、自然科学などほぼ全ての学問分野にわたる科目が9テーマに分類され、講義形式の科目、実習やPBL（Project Based Learning）などを取り入れた科目など提供されている。</p> <p>本科目は、本学の学生がこの単位互換制度により他大学の単位互換科目を受講し、合格評価を受けた科目に対して、単位認定を行う科目として位置づけられる。</p>